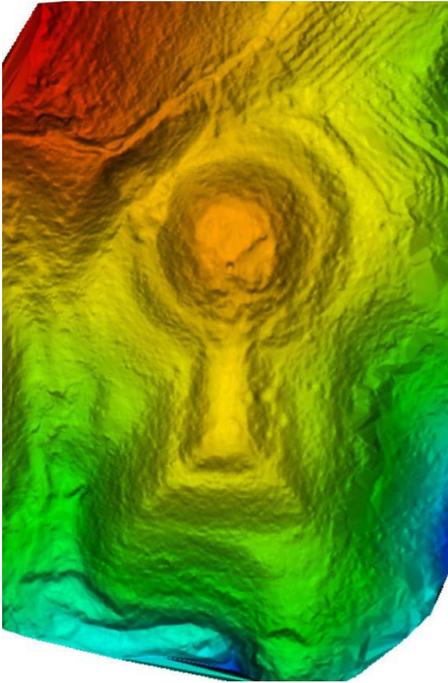


備陽史探訪の会 バス例会
芸北路に新発見の古墳を訪ねる



甲立古墳レーダー測量図



八塚ひろば

平成25年11月3日(日・文化の日)

備陽史探訪の会 古墳部会

 備陽史探訪の会

行程(天候・交通事情などによって変わることがあります)

8:00 福山駅北口出発

8:20 山陽自動車道福山西 IC

8:40 尾道自動車道世羅 IC

9:10 世羅町せらにし支所(休憩)

9:30 出発

9:55 馬通(まどおし)峠、安芸高田市へ

10:15 **甲立古墳見学**

2008年(平成20年)に前方後円墳と確認された前期の古墳です。

11:00 出発

11:10 ローソン吉田町貴船店(休憩)

11:20 出発

11:30 **安芸高田市歴史民俗博物館見学**

安芸高田市の歴史や民俗に関する資料を展示しています。

12:30 出発

12:35 大通院谷公園にて昼食(雨の時は少年自然の家)

旧石器時代から近世までの複合遺跡を公園として整備しています。

13:30 出発

13:45 吉田町中馬(中馬八ッ塚古墳群、明官地廃寺跡、天正の石仏見学)

後期の古墳群、白鳳時代の寺院跡、戦国時代の石仏です。

15:00 出発

15:10 **ふれあいたかた産直市(休憩)**

安芸高田市とJAが運営している市場です。

15:30 出発

16:15 世羅町せらにし支所(休憩)

16:35 出発

17:45 福山駅北口到着予定



安芸高田市の位置

1. はじめに

今年、古墳部会のバス例会は安芸高田(あきたかた)市を訪ねます。安芸高田市は、2004年(平成16年)に広島県の北西部にあった、旧高田郡の六つの町が合併し、広島県で14番目に誕生しました。市役所は吉田町にあります。当市の歴史といえば、なんとといっても中世毛利氏が有名ですが、今回は中世以前の前方後円墳、群集墳、寺院跡等を案内させていただきます。最初は甲立(こうたち)古墳(甲田町上甲立)です。

2. 甲立古墳

安芸高田市内には1000基以上の古墳が確認されていますが、前期及び中期の古墳は少なく、大半が後期以降の古墳です。また、前方後円墳も房後(ぼうご)白鳥古墳(高宮町房後、5世紀代、全長20m)が知られているのみでした。ところが、一連の調査により4世紀後半の前方後円墳であることが確認されたのが、甲立古墳です。

最近までは、古墳のある菊山の西側尾根に築かれた柳ヶ城跡(宍戸氏の本拠と伝わる)の一部とみられていました。ところが、2008年(平成20年)の城跡調査がきっかけとなり、前方後円墳と確認されました。翌年からは測量調査が、翌々年から三次にわたる発掘調査がおこなわれました。今年からは埴輪片の取り出しと復元が行われています。以下にその結果を簡単に述べてみたいと思います。

- ① 時期:4世紀後半(円筒埴輪の形態より)
- ② 墳丘:前方後円墳で全長77m(県内第2位、安芸国では前期最大級)、後円部径56m、高さ15.3m、前方部高さ7.4m(図1)
- ③ 段築:後円部3段、前方部2段
- ④ 墳丘(全体に葺石あり)、後円部墳頂部ともに保存状態よし
- ⑤ 後円部墳頂
 - (ア) 後円部中央に南北8.2m×東西2.9mの範囲に角礫が出土。埋葬施設(主体部)の墓壇範囲と推定。
 - (イ) 墳頂縁辺部・外周に、円筒埴輪(図2)・楕円筒埴輪計31基(円筒24・楕円筒7)が立ち並ぶ埴輪列を検出(円筒埴輪列は前方部にもあり)。
 - (ウ) 南東部分に6.3m×2mの石敷遺構(祭祀跡?図3)を検出。石敷内と付近より家形埴輪を出土。

先にも述べたように古墳時代前期には、安芸高田市一帯は前方後円墳の空白地帯でした。そこに全長77mの甲立古墳が出現しました。また、同時代の備後では辰の口古墳(神石高原町高光、全長77m)が出現しました。甲立古墳から出土した埴輪は辰の口古墳から出土したそれより薄手で、歪みが少なく精緻に作られています。畿内の技術者が製作に関わった可能性が指摘されています。また、墳丘の向きは、前方部が平地部を向く畿内スタイルです。(辰の口古墳は後円部が平地を向いています)。甲

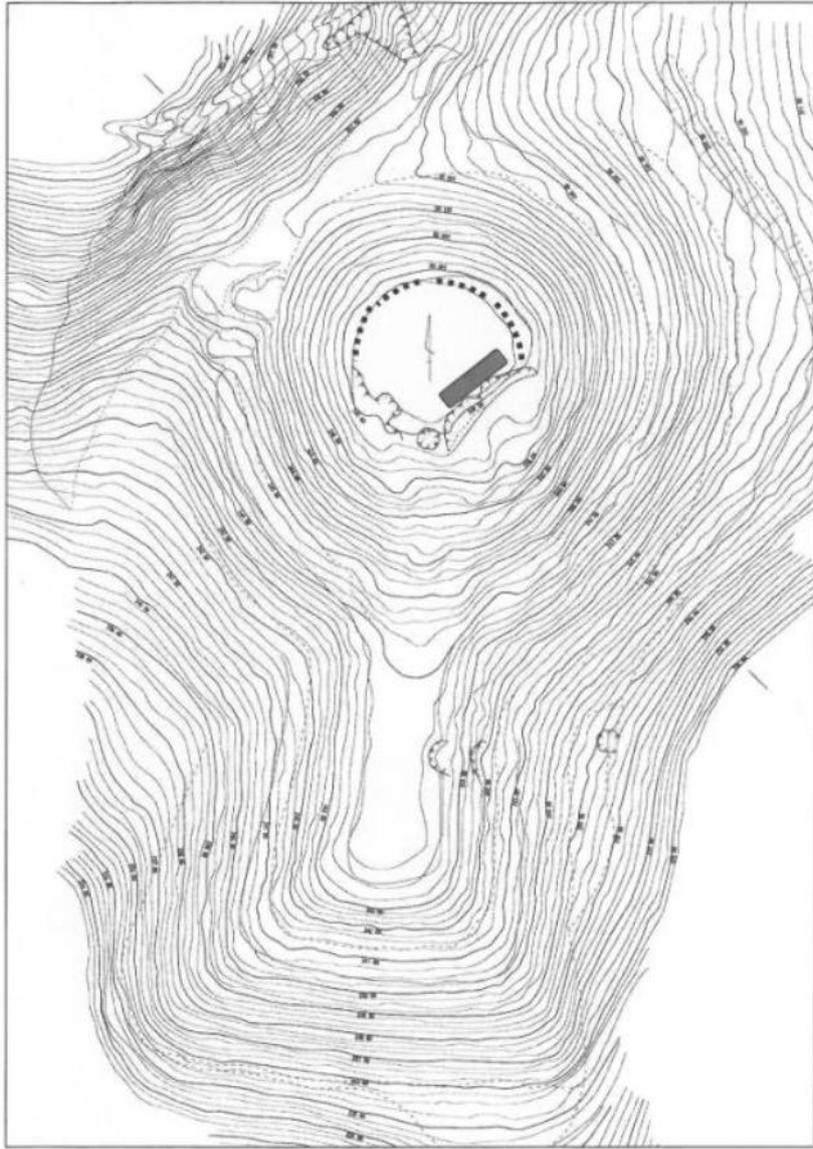


图1:甲立古墳墳丘測量図(1:500)

立古墳は、畿内色の強い前方後円墳といえるようです。この時期を境にこの地域の首長は畿内勢力に組み込まれたようです。その背景として、この地が日本海と瀬戸内海の間地点であるということや吉備勢力の背後であるということなど、地政学的に重要な地域である、ということが指摘できると思います。



図2: 円筒埴輪



図3: 石敷遺構

3. 安芸高田市歴史民俗博物館と郡山大通院谷遺跡

甲立古墳から国道54号線をバスで広島方面へ南下すると、10分ほどで安芸高田市歴史民俗博物館(図4)に至ります。旧吉田町歴史民俗資料館です。安芸高田市の歴史や民俗に関する資料(図5)を展示しています。当日は特別展「毛利隆元没後450年記念事業 特別展『毛利隆元』」が開催されています。

見学後に、北側にある郡山大通院谷(こおりやまだいつういんだに)遺跡(吉田町吉田)で食事をとっていただきます。ここは旧石器時代から近世までの複合遺跡ですが、現在は遺跡公園として整備されています(図6)。ここからは、後期旧石器時代の角錐(かくすい)状石器が出土しています(図7)。槍(やり)先の一種とみられ、現在市内最古の遺物です。また、律令時代の安芸国高宮郡の郡衙施設の一部とされる掘立柱建物群や、郡山城の一部とされる薬研堀跡等が発見されています。しています。(付近の郡山城下町遺跡(吉田町吉田)からは、「高宮郡司解・・・」と記す木簡が出土してい

ます。)



図4: 博物館正面より



図5: 一ツ町古墳出土亀形須恵器



図6: 大通院谷公園



図7: 角錐状石器(大通院谷遺跡出土)

4. 中馬八ッ塚古墳群

さきにも触れましたが、市内の大半の古墳は、古墳時代後期に属します。安芸高田市内には著名な後期古墳が多数ありますが、今回のバス例会では吉田町中馬の中馬(ちゅうま)八ッ塚古墳群(図8)を訪ねます。

博物館から国道54号線をバスで10分ほど南下、その西側の丘陵一帯が吉田町中馬です。その谷間には多くの後期古墳があり、中馬古墳群と総称しています。その谷間を抜ける道路沿いに中馬八ッ塚古墳群はあります。「八ッ塚」と称してはいますが、現在11基が確認されています。古墳群の隣の「八塚ひろば」(表紙)には駐車も可能であり、石室内には照明設備もあり、大変見学に適した古墳群です。以下にこの古墳群についての知見をあげたいと思います。

- ① 時期: 6世紀後半から7世紀前半
- ② 墳丘: 不明の11号墳以外はすべて円墳
- ③ 埋葬施設: 1、8号墳は不明。3、4、11号墳は片袖式の横穴式石室。他は無袖の横穴式石室。

④ 規模(3、4号墳のみ):

	3号墳	4号墳
直径	14m(最大)	12m
高さ	4.5m	3.5m
石室全長	9.5m(最大)	8.5m
玄室長	5m	3.9m
奥幅	1.73m	1.58m
奥高	1.6m	1.65m

⑤ 3、4、11号墳は、当古墳群と南西側に隣接する明官地(みょうかんち)古墳群の中核をなすものであり、古墳群を造営した集団の長の墳墓であったと思われる。特に3号墳(図9)は集団の長を超えた地域首長の墳墓だったと思われる。

⑥ 4号墳(図10)は3号墳に後続するものと思われる。奥壁面の赤色顔料の残存や玄室の棺台石に特徴がある。

さて、当古墳群はその石室の特徴から畿内色の強い古墳群と思われます。ところが、安芸高田市市内において、ほぼ同時代に異なる特徴を持つ横穴式石室を持つ古墳が営まれている地域があります。甲田町から向原町にかけての戸島川東岸の丘陵一帯です。(さらに、その分布は三次市粟屋町付近にまで広がっています。)

その特徴とは、

- ① 石室の玄室と羨道の間に門構え(玄門)を設けてある。
- ② 羨道部と玄室の幅は同規模である。
- ③ 羨道部と玄室の天井石は同じ高さに架けてある。

などです。尾津谷西第10号墳(甲田町下小原、図11)や戸島大塚古墳(向原町戸島、図12)等がこの特徴を持つ古墳(玄門式横穴式石室)とされています。

さて、これらの特徴を持つ古墳は「山陰地域を経由してもたらされた北部九州系」の横穴式石室、という説があります。だとしますと、古墳時代後期に直線距離で10kmほどの場所に(間に山塊がありますが)、畿内系の古墳と北部九州系の古墳が造営されたこととなります。甲立古墳のところでもふれましたが、この地は日本海と瀬戸内海の間地点であり、山陰(北部九州)及び山陽(畿内)の影響を受けやすかったのでしょう。

ただし、古代安芸国において吉田町は旧高宮郡、甲田町と向原町(と三次市粟屋町)は旧高田郡に属していました(後に高宮郡は高田郡に併合)。ですから両者は「別地域」である、と考えることもできるのですが・・・。

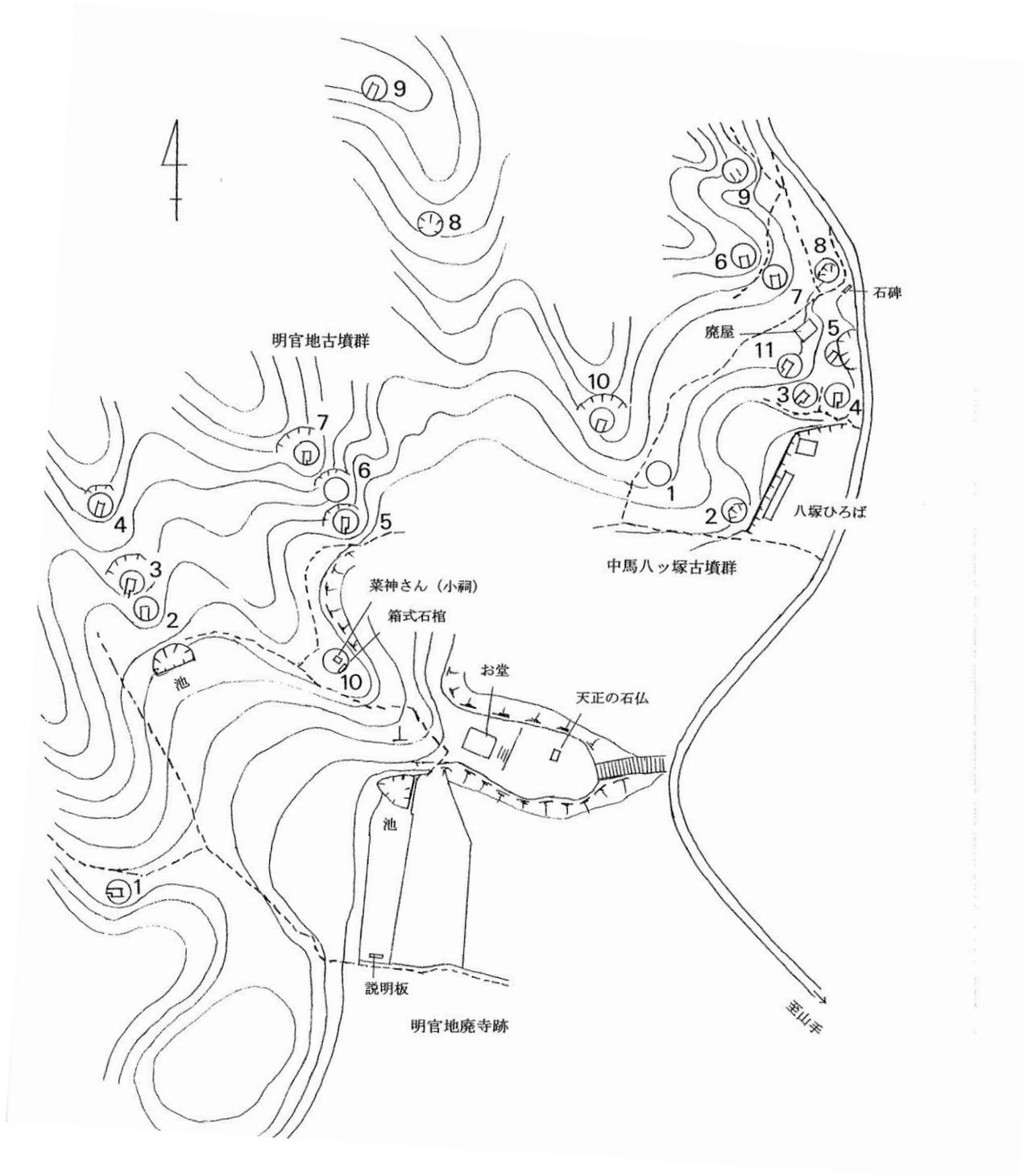


図8: 中馬八ッ塚古墳群と近隣の見取図



図9: 中馬八ッ塚第3号古墳墳丘



図10: 中馬八ッ塚第4号古墳玄室



図11:尾津谷西第10号墳門構え(玄門)

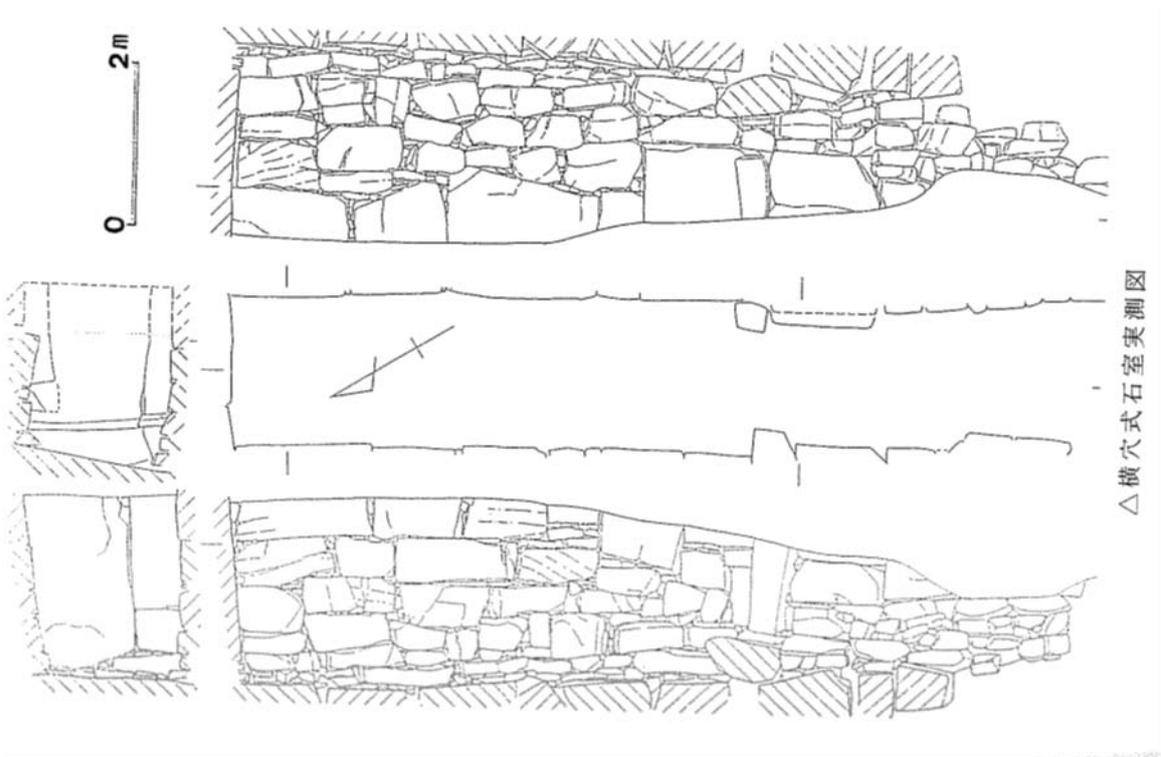


図12:戸島大塚古墳石室実測図

5. 明官地廃寺

古墳時代も終末期になりますと、各地の豪族たちは寺院を造営し始めました。中馬八ッ塚古墳群を造営した人々の末裔が、7世紀後半に建築に直接関わったと思われるのが明官地廃寺(図13)です。以下にその特徴をあげますと、

- ① 南に塔、北に金堂と推定される礎石建物がみついている。東向きの法隆寺式伽藍配置と思われる。
- ② 「高宮郡内マ(部)寺」とへラ書きされた平瓦が出土している。当時この地は内部(うちべ)郷で、郷名を冠した寺院名で呼ばれていたと思われる。
ちなみに当遺跡の東側からは7世紀から8世紀の高床式倉庫とみられる掘立柱倉庫群が見つかった。内部郷正倉別院・郷倉とみられている(明官地東遺跡)。
- ③ 山田寺式の軒丸瓦(火炎文模様を持つ)が出土している。
- ④ 水切り瓦も出土している。

などがあります。また、ほかの古代寺院遺跡としては、正敷殿(しょうしきでん)廃寺跡(向原町長田)が知られています。

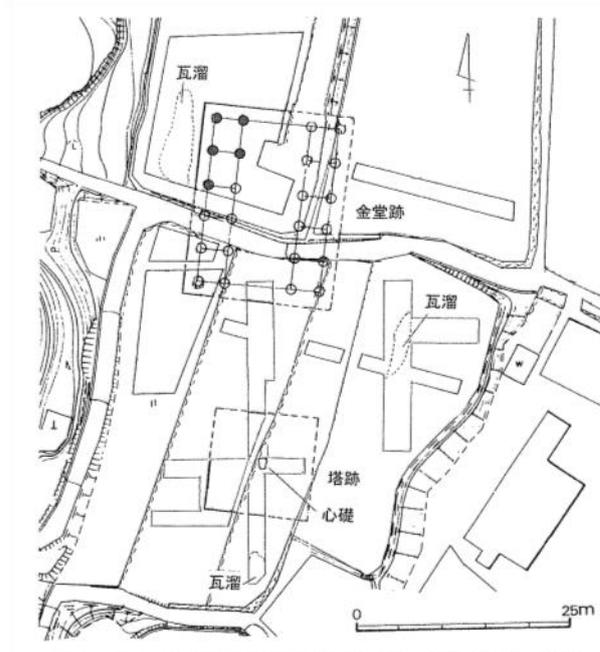


図13:明官地廃寺跡建物推定図

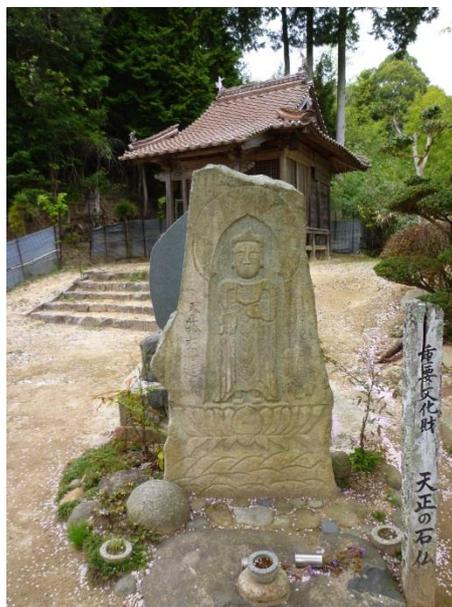


図14:天正の石仏

6. 天正の石仏

本像は、吉田町中馬観音堂境内にあります。この石仏の前面左右に、次の銘文が刻まれています。 右「為月高周大地」左「天正十六年造」

これは「月高」という人物の一周忌のために、1588年(天正16)年に建立されたもの

と解釈されています。

7. ふれあいたかた産直市

この産直市は、地域農産物の販路確保とPR、魅力ある加工品づくり、農業農村の活性化を目的に、「ふれあいたかた産直市出荷協議会」が中心となって安芸高田市、JA広島北部農協が連携し、運営活用しています。



(図15:ふれあいたかた産直市)

(参考文献)

- 安芸高田市吉田歴史民俗資料館(現安芸高田市歴史民俗博物館)図録
「安芸高田の原始・古代～出土品は語る 歴史の幕開け～」
安芸高田市HP
広島県教育事業団埋蔵文化財調査室 ひろしま考古学講座
「甲立古墳から考える古墳時代の広島」資料
川尻 真 「甲立古墳の確認調査について」
広島県文化財ニュース 第215号
脇坂光彦・安間拓巳 「中馬八ッ塚古墳群の測量調査報告」
芸備 第38集 2010
脇坂光彦・小都 隆編 「探訪・広島古墳」
芸備友の会 1991
脇坂光彦・小都 隆編 「百聞よりも一見 探訪・広島県の考古学」
溪水社 2013

(図出展)

- 表紙・レーダー測量図、図1、図2、図3 :
川尻 真 広島県教育事業団埋蔵文化財調査室 ひろしま考古学講座
「甲立古墳から考える古墳時代の広島」資料 2012
表紙・八塚ひろば、図4、図6、図9、図10、図11、図14 : 湯川勝彦撮影
行程表下・安芸高田市の位置、図15 : 安芸高田市HP
図5 : 安芸高田市歴史民俗博物館 HP
図7 : 郡山城跡発掘調査報告No.72(広報よしだ平成15年6月号)
図8 : 脇坂光彦・安間拓巳 「中馬八ッ塚古墳群の測量調査報告」
芸備 第38集 2010
図12 : 脇坂光彦・小都 隆編 「探訪・広島古墳」
芸備友の会 1991
図13 : 脇坂光彦・小都 隆編 「百聞よりも一見 探訪・広島県の考古学」
溪水社 2013



備陽史探訪の会

〒720-0824 福山市多治米町5-19-8

TEL 084-953-6157

Eメール info@bingo-history.net

公式サイト <http://bingo-history.net>